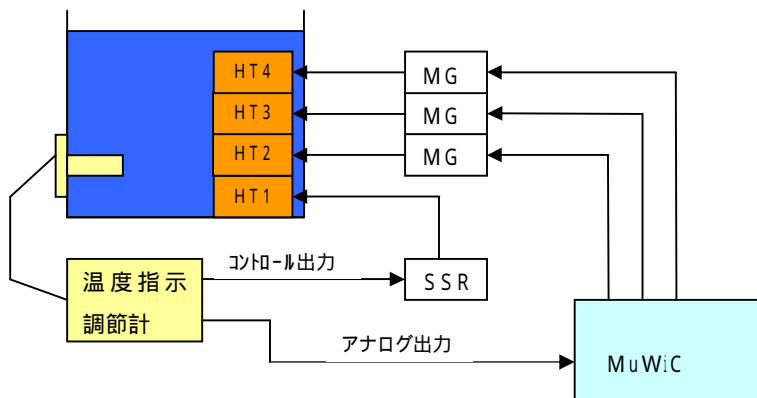
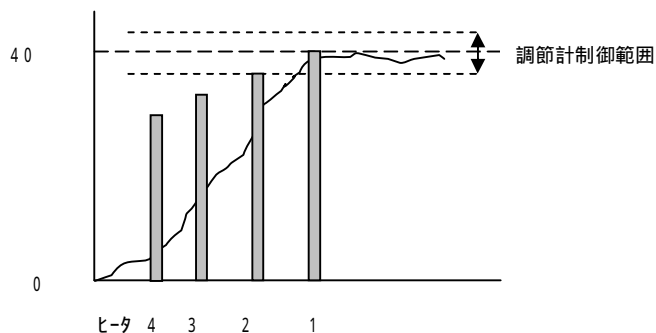


温水槽、電気炉、焼鈍炉、乾燥炉等の初期加熱、加熱時間の短縮に有効



解説
 液温を最短時間で40℃まで上昇させ、かつ高精度に保つためには、調節計のヒータ-1本では不可能です。
 そこで、調節計は高精度用に使用し、複数のヒータはON/OFF制御で、調節計の制御範囲まで最短時間で加熱します。



ヒータNo	用途	制御範囲
1	高精度制御	0 ~ 40
2	急加熱	0 ~ 38
3	急加熱	0 ~ 35
4	急加熱	0 ~ 32

ヒータ容量
 ヒータ1 < ヒータ2 < ヒータ3 < ヒータ4

温度が上昇するにつれて、ヒータが順次切れ、最後は調節計が高精度な温度調節を行う。

- メリット**
- 高価な温調計は1個で良い。
 - 急加熱を行う時だけ電気容量が最大になり、精密制御は最小容量のヒータが使われるので省エネルギーになる。
 - ローコスト
 - 最短時間で加熱が行われるので、待ち時間が少なくなる。

- 応用例**
- 真空ポンプ起動順序
 - 薬液充填
 - 重量計測
 - 乾燥炉温度設定
 - 冷却回路